

Title	多角化企業の市場選択と成果尺度
Sub Title	
Author	矢矧晴彦(Yahagi, Haruhiko) 和田, 充夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第652号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0652

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 矢 矧 晴 彦

主査 和 田 充 夫

副査 片 岡 一 郎

所属ゼミナール 和 田 充 夫 研

矢 作 恒 雄

多角化企業の市場選択と成果尺度

実際に多角化を行っている企業にとり、従来の多角化研究では不十分な点がある。アンゾフやルメルト、そして吉原・伊丹らの多角化研究で代表される従来の研究は、多角化企業自身の保有経営資源や、経営組織などに注目して研究を行っている。しかし一方、多角化企業の進出対象である、市場に関する研究は行われていない。

また、従来の研究では、多角化企業の業績を測定する指標としては、対前年売上高成長率などの、短期的かつ静的な成果尺度が用いられてきた。しかし、多角化の成果は、長期的に測らなければ、正確には判断できない。

従って本研究では、多角化企業が保有している事業の、市場の状況（ライフサイクルの段階）と業績との関連の分析、そして、長期的かつ動的な成果尺度（増分価値比率）と従来の多角化研究で用いられてきた成果尺度との相違、の2点について分析した。

その結果、保有事業の市場の状況については、成長後期または成熟期の事業に限定し、保有している企業の業績が高かった。また、成果尺度については、増分価値比率と従来の成果尺度では、業績に相違がみられた。

本研究は、多角化企業に、多角化行動を考慮する場合に、自社の状況だけではなく、多角化対象である市場の状況を考慮することの重要性と、多角化行動の評価のための成果尺度の重要性を警告するものである。